

No. 1 4 0

~ 主 な 内 容 ~

- 1. 巻頭言
- 調査研究事業の報告
- 実践の広場
- 学校紹介 4.
- 保健室から 5.
- コラム&エッセイ 6.
- 次年度の事業について (主に研修講座)

『ふれあい交流会』 ~手づくりゲームで遊ぼう~ 赤井川村立赤井川小学校





での議論が必要とされています。

このような困難

国民的な規模

立場と責任において考えると共に、

分析が求められます。 子供達の教育に携わってき

た個人及び関係諸機関は、そのことをそれぞれ

もたらした原因や要因について、

冷静で総合的

このような、子供達と学校教育に困難な状況

ついても私たちはどう受け止め、

どのように実践

していったらよいのでしょうか

に共通して見られるようになってしまいました。

中・高校生による刃物の殺傷事件の続発に

学校現場の最重要課題は、

育的力量を高め、

子供達が人間として成長し

教師と教職員集団の教

そのため

0

していくことのできる学校を作ることです。

子供達の現状を認識する、子供達を信頼する、

進めることが大切であると思います。

で厳しい時ほど、原則的で道理を踏まえた実践を

第3学年 『学校祭 合唱』

京極町立京極中学校

ものは、 的な教育実践ではないかと思います。 となくして、学校での教育実践、 りしていくのです。 れる実践であり、 立たないのです。現在学校教育に求められている 法や具体的な手だてが選択されたり生み出された そして、信頼関係を築いていく中から、 「子供達一人一人を知り、 教育の原点に立ち返った地味で人間味溢 教師の実践の多様性を尊重する、 学校の教育活動の統 理解 授業実践は成 し信頼する」こ 実践の方

(教育

後志教育研究会 会長

学校教育に求められるも

現象が、日本の多くの小学校 授業の不成立、 「子供達の荒れ」と言われる 「いじめや不登校」以外にも 学級崩壊など

射守矢 秀 治

平成18年度

調査研究事業の報告

《学習指導に関する研究委員会》

今年度は、3年次計画のまとめの年度となりました。「管内各校アンケート調査と考察」から出発した本研究は、さらなる理論構築とよりよい修正を加え、これまで以上に具現化された検証授業作りに重点をおき、研究を推進していきました。

研究主題

基礎・基本を大切にした学習展開と評価の工夫

目指す子どもの姿

基礎・基本を身に付け、それを進んで次の学びや生活に生かそうとする子ども

研究仮説

基礎・基本を明らかにし、それを生かした学習展開の工夫と、計画的な評価との一体化を図った学習活動を行うことにより、意欲的に学習に取り組み、身に付けた基礎・基本を進んで次の学びや生活に生かそうとする子どもを育てることができる。



3 つの視点は、それぞれに かかわりあっています。

指導計画(Plan)

授業場面(Do)

評価計画・活動

(Check・Action) があり、それらを関連付けて 考え、常に見直していくこと が、よりよい授業へ、そして 子どもたちの伸びへとつなが っていくと考えます。

- 視点1 (P l a n)

基礎・基本を明確に位置付け、効果的な指導を進

あるための指導計画の工夫 指導と評価の一体化

12. 不述 ・ 3. 本

2. 不が ・ 3. 本

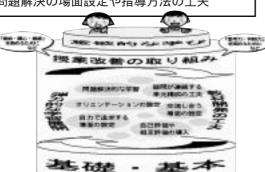
2. 本

2. 不が ・ 3. 本

2. 本

視点2(Do)

基礎・基本を重視し、意欲的な学びを促す 問題解決の場面設定や指導方法の工夫



- 視点3(Check・Action)

一人ひとりの学びを共感的にとらえ、観点や場面・ 方法を明らかにした指導の改善に生かす評価の工夫

より効果的な指導・支援へ

イロコ 人 アー 西京アイロロ その子らしい日きや可能性を見取る共態的な教師の姿勢

今年度発行される研究紀要に、上記についての詳しい理論や実践例が掲載されます。ぜひ、お読み頂き、皆様方の研究や日々の実践に役立てていただければ幸いです。

次年度からは新しい研究を立ち上げます。研究に対するご意見・ご要望等をお寄せいただき、今後の 研修センター調査研究授業に生かして参りたいと思います。

(文責:学習指導委員会 明村秀之)

《心の教育に関する研究委員会》

【はじめに】

本研究委員会は、子どもたちの豊かな人間性や社会性を育成するために、日々の授業の中で具体的にどのようなアプローチ(指導方法の工夫)が考えられるかを授業実践を通して検証することを目的として、3ヶ年計画で研究を進めてきました。

教科・特別活動・総合などでも授業実践を行ってきましたが、今日の社会情勢や教育現場での子どもたちの実態を踏まえた上で、委員会として、より直接的な「心の教育」を重視していく必要性を感じ、昨年度より「道徳」での授業実践を通して、検証してきました。

【研究主題】

『自らの思いや願いを心豊かに表現する力を育む ~「自己の確立」と「共生・共創」の教育活動を 通して~』

●キーワードのおさえ=めざす子ども像

『自己の確立』~「自分の考えや意見を持つ」

「自分の良さに気づく」

「自分の生き方を高める」

『共生・共創』~「相手の存在を意識する」

「立場の違いを理解する」

「お互いの良さを生かし

共に高まる」

【研究内容・視点】

道徳で検証するにあたって、『**道徳における指導** 方法の工夫』『自己の確立、共生・共創の場づくり』 という研究内容の視点を具体的なものにしました。

(研究の視点①) 学習に対する意欲を高める教材との 出会いや単元構成の工夫

(研究の視点②) 子どもの思考や友達とのかかわりを 広げる学習過程や教師の支援の工夫

(研究の視点③) 子どものよさや可能性を共感的・継続的にとらえ、次の学習や生活に生かす評価の 在り方

【平成 18年度の授業実践から】

●検証授業①『勇気の缶詰』 9/25(月)



内容項目:「正義・勇気」 倶知安町立倶知安小学校

4年1組

授業者:植松 真将 所員

●検証授業②『約束』

11/ 1(水)



内容項目:「真の友情」 余市町立旭中学校

2年B組

授業者:佐川 聖明 所員

【研究の成果】

- ●自己の確立の場づくり
 - ◇事前に遊びを通した体験活動
 - ◇想起しやすいできごとの教材化
 - → 意見を持ちやすく、自分のこととして捉えやすい。
 - ◇ペープサートや絵、具体物、ワークシートの活用
 - ◇資料提示の工夫(数段階に分け提示、空欄を設ける)
 - → 興味関心が高まり、引きつけやすい。また内容に入り 込みやすく、発想を広げたり、深く掘り下げることに つながった。
 - ◇実態に合わせた資料(モラルジレンマ資料など)
 - → モラルジレンマ資料の活用における成果と課題
 - ○意見が出やすく、立場の違いを理解しやすい。意見が 出にくい学級で効果的。
 - ○学級の実態把握につながる。そこで落ちている価値項目を後で補うような授業展開をしていく。 (モラルジレンマ以外の資料の活用)
 - △収束が曖昧になりやすく、「心の育ち」より「方法論」 へ走りがちになる。

△価値項目が限られ、パターン化しやすい。

- → **モラルジレンマ以外の資料の活用における成果と課題** ○はっきりとした価値項目をもとにした話し合いがしやすい。
 - ○自分の「生き方」「心」を高める授業を展開しやすい。 △高い価値を持っている子の意見が多く出やすい。

◇発問の工夫

- ・子どもの言葉をもとにした発問(キーワードづくり)
- ・課題につなげる発問(キーワードの引き出し)
- ・ゆさぶる発問(さらに深めるために)
- → 授業の軸をぶらさず、より考えやすく、より深めるのに効果的。また子どもの考えをより主体的なものへと導くために効果的。
- ●共生・共創の場づくり
 - ◇ネームプレートや紅白帽子を使って立場を明確化
 - → 授業者も子どもも視覚的に状況を捉えやすい。(変化

見取りもしやすい)

- ◇実態に合わせた資料の提示(モラルジレンマ資料など)
- ◇発問の工夫や役割演技、ワークシートの活用
 - ・子どもの言葉をもとにした発問やゆさぶる発問
 - ・ロールプレイング
 - ・学習シートや評価シート
 - → 友達の考えが捉えやすい。自分の考えと比較すること により、違う意見の持つ良さに気づくことができ、ま たみんなで考えを出し合うよさを感じることができる。

【今後の課題】

 \emptyset

●価値のとらえを教師がしっかり持つこと。

授業の軸がぶれないよう、また子どもの言葉から価値を引き出したり、さらに深めたりするためにも価値のとらえを教師がしっかりと持つことが大切である。

●実践に生かすこと。

子どもの変容を見取るためには長い時間が必要となる。学習 シートや評価シートを蓄積するだけでなく、系統性を持たせ た計画や授業を生かす実践の場面での見取りが大切になる。

《社会教育に関する研究委員会》

本研究委員会では、地域住民の生涯学習支援や生涯学習を通じた地域づくりなどを推進するため、耳を傾け社会の要請と住民の多様な需要の双方に対応した学習機会の提供や施設設備などを地域住民と協力して主体的に実施することが必要であると考えた。

そのために、社会教育事業全体の実態とその結果を分析し、事業評価をどのようにして進めるかを研究の目的とした。

調査研究期間は平成18年4月~平成20年3月の2カ年継続研究とした。

平成18年度の調査研究は、各種研修会・ブロック会議での学習、ワークショップを通して、評価の方法の課題・問題点を検討し、社会教育事業評価票(案)を試みた。

[平成 18 年度社会教育事業の評価]

- ① 各市町村において社会教育事業の評価
- ② 自己点検(当事者評価)で、当面実施し、第3者評価は別途検討
- ③ 社会教育事業評価票(案)評価指標の検討
- ④ 各市町村で1事業を評価し、研修会までに持ちより評価票の検討
- ⑤ 研修会の実施

社会教育事業評価票(案) 委員会

1	事業名	
2	主幹部局課係	
3	関係課課係	
4	担当者	
5	施策目標	
6	事業目標	
7	事業根要	
8	事業形態	
9	予算額	
10	事業年度	
11	得ようとする 事業効果	
12	必要性 1 2 3 4	

13	効率性 1 2 3 4			
14	公平性 1 2 3 4			
15	優先性 1 2 3 4			
16	有効性	評価指数	参加者	名
		検証手段		
	1 2 3 4	判断根拠		
17	総合判断 (成果と課題) 1 2 3 4			
18	特記事項			
19	備考			

平成 19 年度の調査研究は、1 年次目の社会教育事業評価票(案)の課題・問題点を整理し、今後は各市町村で活用しやすいよう共通様式の評価票に再調整し、これからの社会教育事業の見直しや社会教育計画に役立てる。

◆各種研修会等

・H18. 5.25 第1回後志管内社会教育主事等会議

·H18. 6. 1~2 全道社会教育研修会

・H18. 6.23 後志教育研修センター「社会教育」研修講座

・H18.11. 9~10 道央ブロック社会教育研究協議会

・H18.11.30~12.1 第2回後志管内社会教育主事等会議

・H19. 3. 1 第3回後志管内社会教育主事等会議

11

て、

何かしなくてはならな

いや行動

が乱暴な子が多い我が学級におい

t

我が学級は大丈夫か。」とすぐに考えた。

言葉 れ

滝川での「いじめ」

による自殺が報道さ

はじめに

と思い、

この実践に取り組んだ。

実践の広場

いじめのアンケートから」

(1) 17

じ

めに関心がある子

が

多

主な結果、



増

人回答。

「今いじめられている」

لح

③いじめら

た経

験、

いじ

8

両

者とも ħ

経験した子

岩内町立岩内東小学校

た経験、

常に多

④いじ ⑤誰かに相談した場合、 長びかずに終わったものが多いようだ。 ⑥子ども同士では、 めが 「自然に解決した」 解決しにくい。 必ず解決してい という子が

四 対応

を具体的に振り返ることができたようだ。 内容をそのまま伝えたので、 いう意識 に、 ③の結果には、 より身近な問題として考えさせることにした。 た。 真剣に考えてくれた。 すぐ本人といじめた側に話をし対応した。いじ めた側には、「いじめ」の ® からは、 大事なことであることを理解できたようだ。 その他分析したことについては、 ないことを確認している。 ①については、 自分も誰かをいじめているかもしれないと 調査の結果をそのまま伝えることによって、 を持ってくれた。 人で悩まず、 全員驚いており、 本人が記名してくれたの 現在、 意識がなかったようで また、 誰かに相談すること 自分の過去の 以前のような行為 いじめられ 知らず知らず 授業で 行

学級の実態と子ども達の意識が知りたく、

ケートを行った。

アンケートは、

正直に書いてもらうために

記名にした。

しかし、

記述して回答する質問

担任に名前を分かってほしい人は、

記名

6

質問 1

質問 2

質問3

①おおいにある ③関心がない

後から筆跡で判断できるようにした。

ま を 識にも関係する事である。

したがって、

いじめの特質からして発見しにくく、

個

一人の認 だが、

は

と判断できる事実は見られなかった。

んかや悪口等は、よくあることだが、

実態と意識の

调查

け

お わりに

深く観察し、 と思っている。 本来、この目で見抜いてい えていきたい。 回 アンケートによって実態を ?話しながら子ども達 人ひとり つの行動、 かなけ ればならな の成長を支 表情を注意 確

いじめについてのアンケート あなたは、だれかをいじめたことはありますか。 あなたは、いじめ問題に関心がありますか。 ②どちらかと言えばある ④どちらでもない いじめた人は、どんないじめをしましたか。 どんなことがいじめだと思いますか。 いじめた人は、どんな理由でいじめたのですか。 ① おもしろかったから ③ 相手が気に入らなかったから ⑤ 家庭生活に不満があったから ⑦ まわりがいじめているから ⑥ その他 あなたは、いじめについてどう考えていますか。 ・ ①いじめはいけないことなので、なくすべき ②いじめがあっても、しょうがない ①いじめるほうに問題がる f ③ いじめられるほうに問題がある ⑤ 先生や学校に問題がる ⑦ いじめは何をしてもなくならない あなたは、いじめにあったことがありますか。 質問 10 あなたは、だれかがクラスでいじめられているのを見たことがありますか。 -①今、いじめられている ③過去に(昔)、いじめられたことがある ①見たことがある ②見たことがない 質問5 いじめられた人は、どんないじめをされましたか。 クラスでいじめられている人を見たことがある人は、その時、 のように行動しましたか ②先生に知らせた ①自分もいじめられそうなので何もできなかった ⑥ ただ見ていた ①その場でとめた いじめられた人は、どのように解決しましたか。 ②先生に相談して解決した ④友達に相談して解決した ⑥先生に相談したが解決できない ⑧自然に解決した - 2 -

$\overline{\mathbf{H}}$

実践の広場

.日々心がけていること」



留寿都村立留寿都中学校 諭]||

こすことはなくなるはず。

行動すれば、あわてて行動を起 分でチャイムが鳴る。」と考えて

えている。 いくことである。この積み重ねが生徒達が安心 一日の行動を細やかに振り返り、 安定した学級経営をつづける柱となると考 心がけていることといえば、 再検討して 生徒たち

0)

チャイムと同時に全員が静かに本を開くように 私が見ていない所では、立ち歩いたり、 対話できることに意味がある。」とあった。 増やすことだけでなく、その本と自分自身とが ごす時間は少ない。 ができているように思う。 なった。穏やかな気持ちでスタートを切ること べりをしたりと、 して行っている。 で取り組んでいる所も多いようだが、 私の学級は、「朝読書」から始まる。 中学校は、一日の流れがめま 定着には苦労したが、 一人落ち着いてゆったりと過 ある本に「読書とは知識を 私も継続 学校体制 おしゃ 当初、

と』は大切なことだが『時間を考えて行動する』 チャイム席の指導では「『時間を守るこ チャイムの音で生徒たちは生活して

した」となり、 えると生徒は素直に「はい、できていませんで 「時間を考えて行動していたかい?」と言い換 指導もスムーズに行える でも、 名いる。そんな時「コラ!時間 タバタと席に着くという子は数 を守れ!」と怒鳴りたくなるが、 チャイムが鳴ってからバ

である。 なくては…。」などと助けられることもしばしば めながらも内心は「もうそんな時期か。仕事し テストまであと〇日だね。」などと声がかかり は思いのほか効果があり、 先を見通して生活するように伝えている。これ 年間行事予定等を書かせておく。それを見て、 掲示にも反映させた。 「おっ、先を考えて行動しているな。」などとほ 「時間を考えて行動する。」ことを学級 大きなカレンダーを買い 生徒達から「先生、

は家庭学習ノートを毎日点検していたが、 付けを最優先し、 することとしている。 かせるだけという「学習連絡ノート」を取り入 そこで、学習内容、 家庭学習の習慣づけも、 学習をしなかった日は理由を書いて提出 提出を義務付けている。 学習時間、 毎日の学習に対する意識 悩みの種であった。 一日の感想を書

よりも効果があるように思う。

ことの方がもっと重要だ。」と伝

えている。

時計を見て「あと〇

で毎日一点だけ見る部分がある。 なことかもしれないが、 れている生徒には次の日必ず声をかける。小さ 日を過ごせていたかどうかを評価している。 まってから移動する。 気が抜けているときに、しっかりと椅子をし んと机にしまってあるか。」である。一日の最後 帰りの会が終わり、 この点を見て落ち着いた 生徒がいなくなった教室 私は、 最重要視してい 「椅子がちゃ

とは、 じている の少ない私にとって、 学んだことであり、 り返り、 が、生徒たちに力をつけることにつながると信 る実践である。それを真似し実行に移す。 し、この実践の大部分は、 この一日の流れを毎学期後、 何一つ大げさな経営方法ではない。 学級経営反省としている。これらのこ 先輩方が築き上げた効果あ 私自身が学び続けること 研修先や教育書から さらに細かく振 しか



育成」

を目指し、以下の3つの視点を軸に仮説

成

授業後

研究主題

であるため、

は、

みなさんは「校内研修」が好きですか。

教員

はじめに

実践の広場

「みんなで取り組む校内研修



小樽市立銭函小学校 Щ 倫

生

できました。 など、全ての学級が共通理解のもとで取り組ん

員が積極的に参加することが大切です。 職場のチームワークを重視しながら全ての教職 に応じた課題の解決を図るところに意義があり、 上を図る校内研修は、 求められています。中でも、 となるために、今まで以上に「学びの精神」 りません。また、今日的教育課題に適切に対応 子どもの可能性を開花させる創造的な職業 保護者や地域から信頼される魅力的な教員 本校の研究の概要 「伝え合い、 常に研究と修養に努めなければな 自校の子どもたちの実態 共に高め合う子どもの 実践的指導力の向 が 前 える指導と評価 人の変容が見 ③「子ども一人

た指導計 興味・関心に応じ 子どもの実態や 元に入る前に事 の工夫」では、 調査を行い 一画を作 単

検証型の実践的研究を推進して きました。

聞く・話し合う」ルールの徹底 ンの基盤となる挨拶や「話す・ 工夫」では、コミュニケーショ の育成を明確にした学級経営の ①「コミュニケーション能力

業から脱却し、子ども同士がかかわり合いなが 指導の工夫」では、子どもと教師による一斉授 ②「かかわり合って学び、共に高め合う学習 お互いに高め合っていく授



業を目指して取り組んできました ら学ぶことにより、

> 子どもの変容を具体的にイメージした評価規準 を設定するなどの取り組みを行いました。

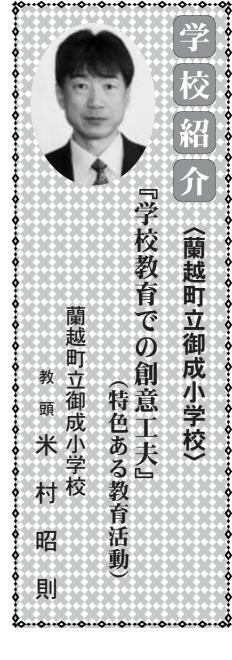
職員による協働体制づくりに努めてきました。 国語・算数・音楽・特別支援の4つのチームに よる主体的な研究を推進することにより、 また、 研究の組織では「研究部会制」をとり

最後に

りません。今こそ教職員一人一人が努力と英知 指導力、総合的な人間力を身に付けなければな 願いを実現するために教員は、子ども一人一人 に惜しみない愛情を注ぎ、 自己実現に向けて心豊かでたくましく主体的に 「生きる力」を身に付けることです。こうした これからの子ども一人一人に求められるのは、 強い使命感と確かな

ことにより、 推進することが く学校づくりを 力ある組織体 に切磋琢磨する を結集し、 大切です。 して内面から輝 活





でム番 い方蘭 すス歴現歴十越 。リ史校 「スリップしたような感じがするすてきな学校の歴史ある校舎で、一歩足を踏み入れるとタイ現校舎は昭和三十五年に落成し、町内では一現校舎は昭和三十五年に落成し、町内では一現校舎は昭和三十五年に落成し、町内では一環越線及び道道北尻別蘭越停車場線蘭越駅の西澤越線及び道道北尻別蘭越原車場線蘭越駅の西 越本

「生も環う

推域り 進 ・が に行い

ボ ラ テ 1 ア 活 動

動に取り組んでいます。てる」ことをねらいにし、各種ボランティア活自ら課題を見つけ、解決しようとする意欲を育ら課題を見つけ、解決しようとする意欲を育たボランティア活動を通し、郷土を愛する心やたボランティア活動を通し、郷土を愛する心や

(ヤツメウナギの放流

全員が、一輪車、 を員が、一輪車、 を員が、一輪車、 び、一校児 一童



大り導先習定週間に 会確も生に)に(運 に実あ方取や一中動

代にも積点に運 極的能 に参加し良いのである。 6767 成績を を 収町 め内 ている ま種

たりしています。なったヤツメウナギの蒲焼きや甘露煮を味

わ

0 配

目に 昭版 ij になります。りに取り組んでいます。明和六十二年から始まっ つ 今年度でなった版画力 第二十のレンダ・

方や関係機関に配布しています。が一枚一枚に春から生活科や総合的な学習でお世話になったが、一枚一枚に春から生活科や総合的な学習です。一枚一枚に春から生活科や総合的な学習です。一枚一枚に春から生活科や総合的な学習です。一を生は紙版画、三年生以上は木版画で一・二年生は紙版画、三年生以上は木版画で

っ是とぎに拾います。最後にゴミの分別もでき缶を拾います。側溝に落ちている小さなゴミ地域の清掃活動を行っています。 御成地域の団体である健寿会と清流会と共に(地域清掃活動) もき 分別も行いゴミや空

康 体 力 増 進 活 動

健

人と人との関わりが少なく、

集団

0

中

保健室から



できること

余市町立旭中学校

丸

Щ

素

子

泣いたり、笑ったり、怒ったり、ふてくとじっくり向き合う余裕ができました。ぎようとしています。ようやく生徒たち早いもので、本校に赴任して二年が過

とつくづく感じます。色々な顔を見せてくれる生徒達。保健室色々な顔を見せてくれる生徒達。保健室されて八つ当たりしたり、甘えたり・・・・。

魅力的な存在でもあります。そんな生徒達は、私にとってけっこう

は何だろう。」と考えることがあります。を求めているのだろう。私ができることとなった保健室で、「生徒達は保健室に何となった保健室で、「生徒達は保健室に何

思うのです。 じます。 くれる。そんな存在を求めているように 徒達が、自分の弱い部分を安心して見せ いう切なる思いに気付きます。そんな生 の自分をわかってほしい。」「とにかく聞 くこの時期への戸惑い、「この不安定な今 らだが自分の意志と関係なく変化してい ほんの少し気の利いたアドバイスをして してくれて、ゆっくり話を聞いてくれて、 に手当をしてもらうように、心の手当も ることができるところ。けがをしたとき いてほしい。」「僕を見て、私を見て。」と 己肯定感の低い子が増えているように感 で自分を上手く表現できずに悩む子、 生徒達と接していると、心とか

ます。

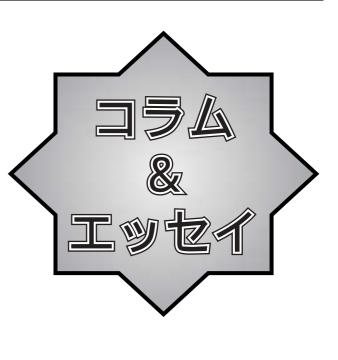
しかし、ただ単にからだや心の不調をしかし、ただ単にからだや心の不調をいつまでも受け身のままでその場から進めなかったり、依存心を強くしてしまうめなかったり、依存心を強くしてしまうに合わせた適切な支援が必要だとも感じに合わせた適切な支援が必要だとも感じています。

いるはずです。その力を上手く発揮でき自分の力で乗り越えていける力を持って本来、どの子も悩みや不安に対して、

がら、共に成長していければと思っていたいと思っています。まだまだ力不足で、たいと思っています。まだまだ力不足で、たいと思っています。まだまだ力不足で、たいともあるのですが、生徒から学びないときには、自分と向き合い、気付き、ないときには、自分と向き合い、気付き、

最近、「生き抜く力」「生き抜く努力」 最近、「生き抜く力」「生き抜く努力」 ることを、私らしさをプラスした。 大変になって、少しくらい気分になってのかと思えて、少しくらい気分になってのかと思えて、少しくらい気分になってのかと思えて、少しくらい気分になってのかと思えて、少しくらい気分になってのかと思っています。 「そんなメッセージを発信していきだよ。」 そんなメッセージを発信していきできなことを、私らしさをプラスした





『学ぶ立場になって』

本 花 田 暁 事務職員

美

状態で一番の劣等生でしたが、韓国人のた韓国語講座と共に始まりました。ハングル文字にカサがふっていないので、完全にお客さんけがふっていないので、完全にお客さんけがふっていないので、完全にお客さんけがふっていないので、完全にお客さんけがふっていないので、完全にお客さんがいる。ハングル文字を全く理解していないにも関わけがあっていないので、完全にお客さんが、韓国の第単とは四月にスタートし

でいただきました。 講座に七回参加し、最後には修了証書まで楽しく学ぶことができました。十回の宣(そん)先生のユーモアを交えた授業

次はオーストラリア人の先生が英会話を教えていると聞き、習いに行ってみました。二十年ぶりの英語の学習ということた。二十年ぶりの英語の学習ということと、英文を見て何となくわかるとは思っと、英文を見て何となくわかるとは思った。

明けて二〇〇七年は、二回目のパソコン教室に参加しました。エクセルについての講座でした。一人に一台ずつパソコンが用意されていて、先生の操作も二人の間の一台のモニター用パソコンで見ることができます。ハード面の整備がされているということは、学習する中で成果であげることになると思います。

先生はベテランの先生で、丁寧でわかち生した。

今回学ぶ立場になり、改めて子どもに

また、 ありこれら こまなっこなな この 一 私が五年間習った小学校の時業 とっての学校を考えてみました。

います。 は、 ます。 けや、 時代の記憶はいつまでも心の中に残って 時折メールの交換をさせていただいてい 生とは三十年近くお会いしていませんが、 勤めてから十一年歌った校歌より鮮明 でも覚えています。五・六年の担 記憶となっています。 私が五年間習った小学校の時の校歌は、 時 卒業生の入退場の合奏曲 その先生が教えてくださったこと 々懐かしく思い出します。子ども 卒業式での もいつま 呼び 任 の先 か

思います。

事務職員として仕事をする中で、学校のハー教育予算を効率的に執行し、学校のハー教育予算を対率的に執行し、学校のハー

れることもあるのではないでしょうか。会話をする中で、何かいいヒントが得らまた時には、子どもの視点に立ったり、

ればと思います。ほかにも、学ぶ立場になって考えていけだりする場である学校に財政面で関わるだとする場が元気に登校し、学んだり遊ん

次年度の研修講座事業とついて

今年度は、延べ526名の受講者数となりました。 講師を務めていただいた先生方、受講された先生方、 本当にありがとうございました。

さて、後志教育研修センターでは、すでに次年度 の講座を企画立案し、右下のように改善いたしまし た。

次年度は、今年度同様学校教育関係27講座、社会教育・幼児教育各1講座の計29講座開設いたします。

すでに今月20日、21日に講師団会議を開いて おります。講師を務めていただく先生方は総数72 名となります。よろしくお願いいたします。



「総合的な学習」研修講座(平成 18 年度) 公開講義「子どものよさを見取る評価」 道研 教育開発部 松尾 則明 研究研修主事

<発行所>

後志教育研修センター 〒 044-0013

虻田郡倶知安町南3東4

III 0136-22-1337

M 0136-22-2681

E-mail skc@cocoa.ocn.ne.jp http://www.shiribeshi-etc.jp/

<発行者> 赤 塚 洋 昭

<印刷所>

有限会社 いとう文化堂印刷

てする方 。研の他 り次修ごに ま年講意も す度座見教 ものと育 皆用取阕 様講り係 のと入団 参目礼体 加指 ヤ とし実講 おて践師 待おにの らり生先 しまき生



「国語科」研修講座(平成 18 年度) 授業実践 吉尾充二教諭(倶知安小学校)

く次年度に向けて> (研修講座事業)

①今日的な教育課題

既存の講座で取り上げていく。

例) 「**食育」**→総合的な学習 「いじめ問題」→学級経営や生徒指導 「**防犯**」→学校経営や生徒指導

②小中別の内容について

例年受講者アンケートなどで、「音楽科」「図工・美術科」「保健体育科」などは、小中別の開講希望があげられております。

かつては、小中別で開講していた講座もあるのですが、受講者数や講座数の関係で今の形となりました。

次年度は、2日日程のコマの中で小中別の時間を 設けるなど工夫していきます。

例) 1コマ目~理論研修(小中共通)

2コマ目~実技研修(小中別)

3コマ目~実践交流(小中別)

③「学校経営」講座

次年度は、「学級経営 小・中」の2講座を夏季 休業明けに実施します。1学期経営してみての課題 や反省を持ち寄り、2学期以降の経営の方針などを 持ち帰る形にしたいと思います。

